

第4週金曜日早課カノン

第一歌頌

イルモス、「昔奇跡を行ふモイセイの杖は」(主日早課8調と同じ)。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

我等今日潔き智慧を以て主の十字架に來りて、敬虔の心を以て之に伏拜せん、蓋此は置かれて、伏拜する者に救の成聖と光照、光榮と慈憐を與ふ。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

生命を施す十字架、置かれて見らるる者は恩寵の輝ける光を放つ。我等就きて、樂の光照と、救と、赦免とを承けて、讚美を主に奉らん。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

觀る者の前に奇異なる觀覽たる尊き十字架は置かれて、潔き心を以て此に來る人人の爲に泉の如く神聖なる恩賜を涌かし、諸罪を解き、諸病を醫し、善き思を豎む。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

海を截り分つ杖は十字架の勝利を預象せり。我等此を以て信に由りて溺るるなく生命の穩ならざる水を涉り、罪の凡の流を免れて、神聖なる平穩に滿てらる。

光榮、今も。

生神女讚詞、子よ、我言ひ難く爾を生みし時産苦を免れたり、如何ぞ今苦痛に滿てらるる、蓋爾寄する所なく地を懸けし主が罪犯者の如く木の上に懸れるを見ると、純潔なる者は泣きて言へり。

第三歌頌(列王記第一卷二章一至十節)

イルモス、「始に智慧にて天を堅め」。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

我等は聖にせられし節制の中節に於て十字架の光線の光に輝かされ、諸罪の暗昧を脱れて呼ばん、衆人の光照たる慈憐の主よ、光榮は爾に歸す。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

十字架よ、我等爾を歌頌し、信を以て接吻して求む、爾の力を以て我等を敵の網より出し、我等衆爾を尊む者を救の港に導き給へ。

光榮、今も。

生神女讚詞、潔き童貞女は殺されたる生命を十字架の上に見て、心の苦痛に勝へずして、泣きて呼べり、嗚呼吾が子よ、不法なる民は何をか爾に報いたる。

坐誦讚詞、第六調。

ハリストス主よ、爾の十字架の木の樹てられしのみにして、死の基は動けり、蓋地獄は貪りて呑みし者を戦きて放てり。聖なる者よ、爾は其爲しし救を我等に顯し給へり、故に我等爾を讃揚す。神の子よ、我等を憐み給へ。

光榮は同上の末辭。今も、

獨人を愛する主よ、今日預言者の言は應へり。蓋視よ、我等は爾の足の立ちし處に伏拜し、木に縁る救を嘗めて、生神女の祈禱を以て罪に縁る苦を釋かるるを得たり。

第四歌頌(アウワクム三章一至十九節)

イルモス、「主よ、爾は我の固、我の力なり」。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

視よ、人人の有能なる帡幪及び更新、信の敗られぬ武器たる救の十字架は置かれて見られ、熱信に此に来る衆の心を恩寵を以て聖にして照す。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

人を愛する主よ、節制の中節に衆人の中に置かれたる至善なる尊き十字架、爾が甘じて其上に地の中に擧げられし者は伏拜せらるるを以て世界を聖にして、惡鬼の軍を遠ざく。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

天及び全地は共に楽しみ、受難者、致命者、使徒、諸義人の靈は今大に喜ぶ、神の賜ひし衆を救ふ木が信者の中に置かれて、恩寵を以て彼等を聖にするを見ればなり。

光榮は

主よ、我良心を失ひたる者は爾の法を守らざりしに因りて、爾が天より人人の行を審判する爲に来らん時に定罪せらるべし。故に爾に呼ぶ、爾の十字架の力を以て我を反正せしめ、痛悔の涙を我に與へて、我を救ひ給へ。

今も

生神女讚詞、子よ、我童貞の腹より爾を生みし者は爾が木に懸けらるるを見て訝りて、奥密の高きと爾の大なる議定の深きとを悟らずと、純潔なる者は呼べり。我等黙さざる聲を以て彼を神の母として讃揚す。

第五歌頌(イサイヤ二十六章九至十九節)

イルモス、「隠れざる光よ、何ぞ我を爾の顔より退けし」。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

諸民よ、呼びて歌へ、諸族よ、動なき固なる十字架を賜ひし神を讃美せよ。

我等今節制の時に之を楽しみて、心と思とを養ふ。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

至聖なる十字架よ、無形の衆軍は爾を尊み、我等人人も塵の口にて今日爾に觸れて、愛を以て成聖と祝福とを汲みて、爾の上に釘せられし主を讃榮す。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

慈憐なる主よ、吾が靈の固結したる慾を醫して、我を爾の聖なる苦に伏拜する者と爲し給へ。至仁なる主よ、齋の時に我を改めて、諸惡より離れしめ給へ。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

生神女讃詞、純潔なる者よ、爾は仁慈に由りて爾より不可思議に生れし主が十字架に在るを見て、心刺されて言へり、嗚呼我が神聖なる子よ、如何ぞ爾は衆の爲に苦しめる、主よ、我爾の慈憐に伏拜す。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

イルモス、「萬物は爾が神妙の光榮に驚かざるなし」 4調 (生神女カタワシヤに同じ)

八段に、

主よ、患難の時我等爾を尋ね、爾の懲罰の我等に及べる時靜に禱を為せり。

獨義なる主、救世主よ、光體は爾恒忍なる主が非義に木の上に釘せられて、爾の權能を以て兇惡者の暗き權柄を辱かしむるを見て、己の光を隠せり。

妊める婦の産に臨みて苦しみ、其痛に由りて號ぶが如く、主よ、我等は爾の前には是くの如くなりき。

我等は齋の水を以て面を洗ひて、木に接吻せん、蓋死すべき肉體を衣たるハリストス、獨萬有の主たる者は其上に擧げられたり、我等を殺しし者を殺さん爲なり。

主よ、我等爾を畏るるに因りて妊みて苦勞し、爾の救の神を生みて、之を地に施せり。

至尊なる十字架、使徒の譽、受難者の武器、司祭等の光榮、克肖者の保護、衆信者の守護者よ、信を以て爾に伏拜する者を守りて聖にし給へ。

我等主を頼みて亡びず、唯地上に居りて地を頼む者は亡びん。

生神女讃詞、葡萄の樹たる童貞女は其生ぜし所の房が木に懸れるを見て呼べり、子よ、爾至りて恒忍なる主を妄に十字架に釘せし諸敵の酔を醒ます甘味を滴らせ給へ。

四段に、

又、同調。イルモス、「生を施すハリストスの十字架よ」(4調)。

爾の死者は復活し、墓に在る者は起き、地に在る者は樂しまん。

今日爾の十字架、伏拜せらるる生命の木が進めらるるに、世界は神の來るに

困りて喜びて、之に接吻す。

蓋爾よりする露は彼等の為に醫治なり、地は其死者を出さん。

主よ、天の役者は前に置かれたる爾の十字架を見て、爾を歌ひ、悪鬼は爾の權能に忍びずして戦く。

光榮、

三者讚詞、我等は正教の信を抱きて、三者なる父、子、及び聖神、唯一の神性、三位の唯一者を讚榮せん。

今も。

生神女讚詞、我等信者は正教の信を抱きて、爾言ひ難くハリストス我等の神、唯一の大仁慈なる主を生みし者を、母及び童貞女として讚揚す。

我等の神よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。

黄楊と松と杉との上に釘せられし神の子よ、我等衆を聖にして、爾の生を施す苦を見るを得しめ給へ。

イルモス、生を施すハリストスの十字架よ、我等夜より寤めて、畏を以て爾に伏拜する者を照して、常に我等に救の日を輝かし給へ。(4調)

金 5-2 8調

いのちを施すハリストスの十字架よ我等
夜よりさめておそれを以て爾に伏拜する者を
照らして常に我等に救いの日を輝かしたまえ

第六歌頌(イオナ二章三至十節)

イルモス、「救世主よ、我を浄め給へ」。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

十字架が地に樹てられしに、悪鬼は倒れ、我等は今其至榮にして前に置かれたるを見て、之に接吻して、罪の倒より起く。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

我等は爾ハリストスを王及び主として崇め讚めて、爾が我等に賜ひし壊られぬ牆なる十字架に接吻して、神聖なる齋の中節を楽しむ。

光榮、

我等衆に大なる恩賜を與ふる主の十字架は置かれて見らる。人人よ、之に就きて、心と靈との光照を汲まん。

今も。

生神女讃詞、衆人の轉達なる潔き童貞女よ、我等を凡の惡を齎まん爲に堅め、常に邪なる、行を禁ずるを助け給へ。

小讃詞、第七調。

燄の劍は既にエデムの門を守らず、蓋之を卻くる至榮なる十字架の木は至れり。死の刺及び地獄の勝は亡びたり、蓋爾は、吾が救世主よ、現れて、地獄に在る者に呼べり、復樂園に入れ。

同讃詞

ピラトはゴルゴファに於て三の十字架を樹てたり、二は盜賊の爲、一は生命を施す者の爲なり。地獄は之を見て、下にある者に謂へり、嗚呼我が役者、我が能力よ、誰か釘を吾が心に打ち、俄に木の戈を以て我を刺したる。我割かれて、吾が内は痛み、腹は傷つけられ、吾が感覺は吾が神を擾して、我はアダム及びアダムより以來木に縁りて我に與へられし者を吐くを促さる、蓋木は復彼等を樂園に入らしむ。

第七歌頌(ダニイル三章二十六至五十六節)

イルモス、「昔ワフィロンに於て火は神の降臨に慙ぢたり」。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

時より上なる主は時の中に肉體を衣る者と現れて、其仁慈に因りて、我等の固結したる慾を、節制の時に、斯の我等を聖にする神聖なる十字架の置かる時に醫し給ふ。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

主よ、我等爾の權柄を歌ひ、讃め、崇め、之に伏拜す、蓋爾は我等爾の諸僕に神聖なる十字架、盡きざる樂及び吾が靈體の守護者たる者を賜へり。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

主よ、詰問の日に於て我を惡の爲に定罪せられし者と爲す勿れ、爾の顔より恥を蒙りし者として遠ざくる勿れ。求む、我を宥めて、爾の尊き十字架を以て我を救ひ給へ、爾は至仁なる主なればなり

光榮、

十字架よ、モイセイは木を以て最苦き水を甘くして、爾の恩寵を預象せり、蓋我等は爾の力に因りて諸慾の苦きを免る。故に今靈の傷感を以て爾に接吻

する我等を楽しませ給へ。

今も。

生神女讃詞、敵の悉くの悪謀を抑制せし女宰、神の母よ、爾の祈禱を以て我が智慧の狭きを廣くし、我に狭き途を以て廣き生命に往くを教へ給へ。

第八歌頌(ダニイル三章五十七至八十八節)

イルモス、「**ハルデヤの窘迫者は怒に堪へずして**」。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

至尊なる十字架よ、昔神聖なるエリセイは木を以て斧を河より引き上げて、廻に爾を預兆せり、蓋我等は爾に由りて迷の深處より確なる信に上げられて、今日爾を見、熱切に爾に伏拜するを得て、救を承く。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

至尊なる十字架よ、イアコフは祝福に於て廻に爾を明に預象せり。我等は恩寵の時に於て爾を覩るを得て、皆疑なき信を以て就きて、爾に觸れて、豊かな祝福と、光と、諸罪の赦と、救とを承く。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

我等は徳行を以て潔められて、節制の中節に楽しみて主の十字架に就き、信を以て之に接吻せん、其力に治められ照されて、善き旨を以て途を終へて、神聖なる苦に至らん爲なり。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

三者讃詞、一性にして同無原、同永在、同寶座なる単一の神性、位に於て分れたる、生れざる父、子、及び聖神、造られざる性、惟一なる神を我等皆讃揚して歌はん、司祭よ、讃め揚げよ、民よ、萬世に尊み崇めよ。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

生神女讃詞、吾が子、無原なる主よ、我今爾が無玷なる羔として、不法者より十字架に釘せられて懸れるを見て、痛く泣き號びて、母たる苦に堪へずと、純潔なる童貞女は呼べり。我等は黙さざる聲を以て職として彼を萬世に歌はん。

又、**イルモス**、「**生神女の産は敬虔の少者を爐の中に守れり**。」

天の諸の鳥と、野獸と、一切の家畜は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

恒忍なる主よ、造物は爾苦に與らざる者の苦を見て、爾と偕に苦しみ、日は晦み、磐は砕け、全地は震ひ、畏を以て呼べり、造物は主を歌ひて、萬世に讃め揚げよ。

人の諸子と、**イズライリ民**は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

我が洪恩なる神救世主よ、我を内密に責むる葦間の猛獸を禁ぜよ、蓋爾は、

ハリストスよ、恥づべき強暴を忍び、葦にて打たれたり、凡そ古の罪犯に由りて辱かしめられし者に尊貴を還さんと欲したればなり。

主の司祭と、主の諸僕は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

至りて義なる審判者よ、我爾の畏るべき審判を心の中に入る時、我が定罪に當る行を思ひて、恐れ戦きて、悲しみ泣く。故に救世主よ、爾の多くの慈憐に祈る、願はくは我が惡の多きは爾に勝たざらん。

諸神と諸聖人の靈、諸義人と心の謙卑なる者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

生神女讃詞、我産苦なく爾を生みし者は爾が十字架に釘せらるるに因りて苦痛を忍び、吾が内は燬かる、蓋恒忍なる主よ、爾は釘にて打たれ、爾の脅は戈にて刺されたりと、至浄なる童貞女は呼べり。我等彼を生神女として同心に歌頌す。

又、イルモス、「神の悉くの作爲と悉くの造物とは」。

アナニヤ、アザリヤ、ミサイルは主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

十字架の木の伏拜せらるるを見て、山は靈妙に義を流し、岡は樂を灌ぐべし。ハリストスよ、我等此を世々に崇め讃む。

主の諸使徒、預言者、致命者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

ハリストスよ、爾の十字架の恩寵は畏るべし、蓋惡鬼の軍を逐ひ、人人に醫治の水を與ふ。故に我等爾を世々に歌ふ。

我等主なる父と子と聖神とを崇め讃めん。

我等は無原なる父及び子を聖神と偕に歌頌して、一性なる三者、唯一の原因、唯一の神を敬虔に讃め揚げて、世々に彼を歌はん。

今も何時も世々に、「アミン」。

生神女讃詞、童貞女よ、凡そ地上の者の舌は爾を歌ふ、蓋爾は世界を照す近づき難き光たるハリストス神を輝かせり。我等彼を世々に崇め讃む。

我等の神よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。

人を愛する主よ、地の極は爾の十字架の伏拜を喜び、天使等は天に於て今日我等と偕に祝ひて、ハリストスよ、爾を世々に歌ふ。

我等主を讃め、崇め、伏し拜みて、世々に歌ひ讃めん。

イルモス、神の悉くの作爲と悉くの造物とは主を崇め讃めよ、蓋人人の爲に地に光は輝き、全地を照して、世界に永遠の生命を賜へり。人人よ、歌ひて、彼を世々に讃め揚げよ

金 8-3 4調

神の悉くの わ - ざ - と 悉くの造物は主を 崇め讃めよ
 蓋人々の為に地に光はかがや - き 全地を照らして
 世界に永遠の生命を たまえり 人々よ うたいて
 彼を 世世に 讃めあげよ

司祭 生神女光の母を讃歌を以て讃め揚げん。

(詠) [ヘルビムの歌]

第1句 我が心は主を崇め、我が^{たましい}靈は神我が救主を悦ぶ。

附唱 ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を^{かみことば}生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

第1句

我が心は主を あがめ 我が靈は神我が救主を 喜こーぶ
 附唱
 ヘルビムより尊とく セラフィムに並びなくさかえ 貞操を
 破らずして神言を生みし 実の生神女たる 爾をあがめ讃む

第2句 その婢の卑しきを願^{かえり}み給へり、今より萬世我を福なりと言はん、

→附唱 ヘルビムより尊く

第3句 権能を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、其の名は聖なり、

其の憐れみは世世 彼を畏るる者に臨まん

→附唱 ヘルビムより尊く

第4句 其の肘の力を表して、心の驕れるものを散らし給へり、→附唱 **ヘルビムより尊く**

第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ給へり。→附唱 **ヘルビムより尊く**

第6句 其の僕、イズライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、アウラアムと其の裔を世世に憐れむ事を記憶し給へり、→附唱 **ヘルビムより尊く**

第九歌頌

イルモス、「天は懼れ、地の極は驚けり」。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

至仁なる萬有の王、衆人の樂、甘味、光榮、永遠の救なる者よ、爾は昔爾の手と足とを十字架に釘せられ、脅を刺され、膽と醋とを飲ませられて、我の敗壞を醫し給へり。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

神聖なる十字架よ、爾は青玉及び黄金より美しく、日の如く耀く。爾は限られたる處に臥し、無形なる軍に愼を以て繞られて、爾の力の神聖なる光線を以て遍く全地を照す。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

十字架は荒さるる者の港、迷ふ者の指導及び防固、ハリストスの光榮、使徒と預言者との能力、修齋者の力、悉くの人の避所なり。我等皆此が中に置かるるを見て、節制を以て接吻す。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

主よ、爾が己の造りし世界を審判する爲に地に來らん時、爾の天軍は前驅し、十字架は日の光線よりも明に輝かん。其力にて我を扶けて、我衆人より多く罪を犯しし者を救ひ給へ。

(冠詞)我衆伏拜せらるる木を歌ふ

生神女讚詞、子よ、我は爾父が世世の先に生みし者を害なく腹より生みたり、如何ぞ爾は害はるる、人人は爾を苦しめ、戈を以て脅を刺し、手と足とを無慙に十字架に釘すと、純潔なる者は呼べり。我等宜しきに合ひて彼を崇め讚む。

又、イルモス、「凡そ地に生るる者は聖神に照されて楽しみ」(4調)

其聖なる約、即我が祖アウラアムに矢ひたる誓を記念せん、

ハリストスよ、爾は十字架の木を以て罪の燄を滅し給へり。

謂ふ、我等に我が諸敵の手より救はれし後、懼なく、彼の前に在りて、聖を以て、義を以て、生涯彼に事へしめんと。

大仁慈なるハリストスよ、爾は手を舒べて、不節制にして唯一の食の爲に禁ぜられたる木の果に手を舒べたる者を敵の手より救ひ給へり。

子よ、爾も至上者の預言者と称へられん、蓋主の面前に行きて其道を備へ、

ハリストスよ、無慾にして爾の尊き十字架に伏拜する者に衆人に苦なきを流す爾の苦を潔く見るを得しめて、我等の諸罪を顧みずして、我等を眞の復活の諸子と爲し給へ。

彼の民に、其救は即諸罪の赦にして、我が神の矜恤に因ることを知らしめん。

我等の爲に爾の血を流しし恩主よ、爾は我等死に陥りたる者を上げて、爾の復活を以て仇を解きて、我等を爾の父と和睦せしめ給へり。故に我等爾を神、全能なる贖罪主として讃榮す。

此の矜恤に因りて、東旭は上より我等に臨めり、幽暗と死の蔭とに坐する者を照し、

生神女讃詞、獨神の實在の睿知を生みし生神女、婚姻に與らざる童貞女、信者の確なる避所よ、祈る、我に誘惑者の悪謀と悪計と網とを逃れん爲に智慧を授け給へ。

又、イルモス、「潔き生神女よ、我等は種なき爾の産」。

我等の足を平安の道に向はしめん為なり。

尊き十字架、天軍の繞れる者に我等も伏拜して崇め讃む。

我等は救世主の十字架、至淨なる木、我等先に死せし者が此に由りて生を得たる者を崇め讃む。

光榮、

三者讃詞、我等は無原の父、同無原の子、及び同寶座の神、聖なる三者を崇め讃む。

今も。

生神女讃詞、潔き者よ、我等は爾聘女ならぬ母及び童貞女を讃め歌ふ、蓋爾は種なく造成主を生み給へり。

我等の神よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。

ハリストスの十字架よ、我等爾を見及び伏拜するを得たる者が至聖なる苦に至るを助けよ。

イルモス、潔き生神女よ、我等は種なき爾の産なるハリストス我が神を黙さざる歌を以て崇め讃む。

金 9-3 4調

潔き生-神女よ 我等は爾容れ難き者を腹に容れしもの
天よりいとひろく ヘルビムより至と光栄なるものよ
歌を以て あがめ讃む

常に福にして (6調) 小連禱